自立・自己実現
①生活習慣と規則を守る力
②仲間とともに高まる力
③自ら学び、考え、判断する力

学校だより DREAM

茨木市立西中学校
7月　No.5
発行責任　田中義明

7月 月間目標
服装を正しく！

ワールドカップが盛り上がりを見せていますが、日本代表が姿を消してしまったので、かなり残念ですね。どの試合も、白熱し、特に決勝トーナメントに入ってからは、優勝候補のチームであってもそう簡単には、勝たせてもらえません。ぎりぎりのところで勝負をし、決定力のあるチームや勝ちたい気持ちのより強いチームが勝っていく。そんな厳しい戦いが続いています。

そのワールドカップで、試合中に、ある選手が相手チームの選手に噛みつくという前代未聞の行為がありました。噛みついた選手には、試合への出場停止や罰金などFIFAから厳重な処分が課されました。ワールドカップという世界最高の舞台で、それぞれの選手が、最高のパフォーマンスを発揮し、すばらしい試合を見せてくれる。世界中の人たちはそう期待していたと思いますが期待を裏切る結果になってしまいました。特別なすばらしい選手であっても、こういった行為は許されるものではありません。4年に一度の大会に向け、努力を積み重ねてきた選手たちが安全で安心して試合を行える。それを守ってくれるのがスポーツのルールです。

さて、みなさんは、今、3年間の中学校生活を精いっぱい過ごしています。また、学校は、夢や目標を実現するための力をつける場所です。毎日の生活は楽しいことやしんどいことなど様々なことが起りますが、みなさんは「良くなりたい」気持ちをもって生活していると思っています。そして、一人ひとりの成長と活躍を信じて、家族や友人など支えてくれているすべての人が応援してくれています。こうした学校生活を安全・安心で、それぞれが最高のパフォーマンスを発揮してもらえるように学校にはルールがあります。

学校におけるルールはみなさんの生活を守るという役割を果たしています。

7月の月間目標は「服装を正しく」です。

4月から、学校としていいスタートがきれ、みなさんの頑張りを毎日たくさん見ることができていますが、服装などについては、徐々にだらしない姿を見ることも増えてきました。

以下、「中学校生活の目標ときまり」より、服装にかかわる部分を掲載しておきます。それぞれ確認をしてほしいと思います。

中学校生活の目標ときまり（抜粋：夏服に関わる部分のみ）

服装・所持品など

制服　（男女とも標準学生服）

【男子制服上着】

①夏服は、半袖カッターシャツ（半袖開襟シャツも可）を着用し、シャツのすそはズボンに入れる。

【男子制服ズボン】

夏冬兼用の黒色学生ズボン（普通型）。標準型のズボン以外は使用しないこと。

【女子制服上着】

①夏服は、白色セーラー服、えりは水色、白線3本、ネクタイは白色

・ネクタイをはずしたり、服のたけを短くしたりしないなど、故意に技巧をしない。

・袖のボタンをとめる。

【女子制服スカート】

①スカートは、標準のものを着用すること。

②スカートの長さは、ひざがしらがかくれる程度にする。

・故意にスカートたけを長くしたり、短くしたりしないこと。（スカートを折ったり、切ったりしない）

名札

・名札は決められた場所に正しくつける。

・夏服時においては、ポケットに安全ピンを使用して正しくつける。

今回は服装について特に取り上げ、書かせてもらいましたが、頭髪や遅刻など、学校で守ってほしいルールはたくさんあります。学校という集団生活の場では、みなさんが、お互いのことを意識しながら、ルールに則った生活をしないと、すべての人の安全や安心は確保できません。また、中学を出て、新しい社会に進んでいくために最低限必要なルールを身につけることは、あなた自身を守ることになります。

こういった考えに基づいて、先生方は、ルール違反に対し、毅然とした姿勢で指導をしていこうと考えています。みなさんにもあらためてそういう認識をもってほしいと思います。

保護者のみなさまへ

携帯アプリ「ライン」について

今年度も、携帯アプリ「ライン」にかかわる生徒間のトラブルが何件か起こっています。昨年度や新入生保護者説明会などでもお知らせしてまいりましたが、携帯やコンピューターを介したネット上での書き込みよるトラブルに起因する「いじめ」も危惧されます。ご家庭で携帯等を買い与える場合は以下のことにご注意をお願いします

ネットトラブル（いじめ等）の加害者・被害者にならないために

①買い与えた携帯やコンピュータは買い与えた保護者でルールや管理の権限を持つ。

②ネット上の問題発生の最終責任は本人でなく、保護者が責任をとらねばならない事をしっかり認識させておく。

保護者のみなさまのご理解とご協力をお願いいたします。

新入生保護者説明会冊子より

学校では、一人ひとりがより良き生活態度を身につけるため、また集団としての安定と安全・安心を確保するため、他の多くの教育的指導と並行して西中生徒が守るべき規則やマナーを定めております。

その規則の中でも、とりわけ服装や頭髪等に関しましては、多くの部分は本来的にはご家庭のしつけや指導の範疇（はんちゅう）に入ると考えています。　しかし、服装や頭髪等が個人や集団の学校生活と密接な関係にあると考え、学校としても毅然とした指導を心がけるようにしております。

携帯アプリ「ライン」について

携帯アプリ「ライン」にかかわる生徒間のトラブルが何件か起こっています。そこで、この場をかりて、再度、昨年の１２月９日ＳＴ（現2年）と１２月三者懇談の場（現3年）でお知らせとして配布させていただいたものを再掲させていただきます。

本校においても、ラインにかかわるトラブルが今年度だけでも2件発生しています。その内容は、ライン上で、ある生徒（2名とも女子、そのラインに登録参加していた）が人権侵害にあたる言葉を書かれているというものです。また、それらの事案はその携帯上にとどまらず、それが波及したトラブルにも発展する可能性がありました。

両件ともその波及に関しては、すばやい保護者の連絡もあり、学年を超えた教師の指導もでき（保護者自身が被害者として名前を出す事の了解を受けた学校での指導もでき）、トラブルへの発展は最小限にとどめることができたと学校では判断しております。

しかし、このような事案が今後も起こらないとは限りません。そこで、ラインにかかわるトラブル発生の可能性を保護者の方にお知らせをするととに、中学入学時にお渡しした新入生保護者説明会冊子の一部を掲載させていだき、お子様がトラブルに巻き込まれないようにご注意していただくことを改めてお願いさせていただきます。

新入生保護者説明会冊子より

ぜひ、新しいクラスでは、「共に頑張りあえるクラス」を作ってください。

５月２２日、修学旅行出発の日の朝7時。

運動場では、全員の整列と学級委員による点呼は、すでに終わっていました。

東先生の方から「ここから来る者は遅刻です」と厳しい口調で宣言されました。その後に来た2名は隊列の中にはそのまま入りませんでした。

自分学級授業

私は、この段階でこの修学旅行は成功する、みんながエンジョイできて、思い出に残る修学旅行になると確信しました。

宿について1日目の夕食時です。 6時に食事です。 最初に食堂に入ってきた人は5時５０分。最後に食堂に入ってきた人が5時５５分でした。

１１時には宿全体が静かになったので私は寝ました（先生方は、万が一もありますから、ずっとおきておられました）。

明くる日の朝、宿のご主人は「こんなに、よく挨拶して、生徒達が自分達で動いている学校は初めてです」とおっしゃいました。

さて、６月は「教育月間」といって、この１年間の自分や学級や授業において大きく成長する、そのための軸を据える月です。

軸とは、もどるべき場所です。　これから１年間、自分にはいろんな事があり、時には自分に自信が持てなくなる時があるかもしれません。また、悲しくなっ、たり、苦しくなったりする時があるかもしれません。　そんな時に、本当は「自分はどんな自分になりたい」と思っていたのか＝これが軸です＝を持っている人は強いです。　しんどいことがあっても、逆にそれが自分をさらに、やさしく強い人間にする機会となるのです。

それは、学級や授業でも同じなのです。　４月にこんな学級を作ろうと学級目標を決めても、学級がそれとは違う学級になることはよくあります。　いえ、きっとそれが普通の学級の姿であろうと思います。　その時に、本当に「こんな学級にしたいという学級」とは何なのか！？　そんな『本当の学級の姿＝軸』を持っている学級は強いです。

そして、その軸を据える月がこの６月なのです。

だから、生徒会の月間目標も「仲間のいいところを見つけよう」となっているのです。　この目標には、とても深い意味があります。

それでは、月間目標である「仲間のいい所をみつけよう」を１つでも実現するため、校外学習・修学旅行後の６月に、一人ひとりが、学級が、授業が　大きく成長する、そんな軸をしっかり据える、そんな月になるようにしてください。

そして、そのためにも、その土台となる時間・服装・美化の３規律をしっかりと固めることも怠（おこた）らないようにしてください（3規律は3委員会の役割＝責任領域です）。

※「方向感覚」（今、何をする、してはならない）を入れて、４規律という場合もあります。

1年校外学習（万博）

2年校外学習（神戸）

合唱はもちろんですが、合唱を聴く姿がとても印象に残りました。それは、前で歌っているクラスはここまでくるのに苦労してきた。そして今、目の前で頑張っている。その姿が、他人ごとでなく自分や自分のクラスの苦労や頑張りと重なる。だからこそ、あの聴く姿が生まれたんだと思います。　それは、けっして行儀がよいというレベルの話ではありません。苦労をし頑張ってきた者同士の間にこそ生まれる一体感の姿だと思います。